

北の大地を拓く

― 亘理伊達家の北海道開拓物語 ―



仙台大学客員教授 元宮城県図書館長
伊達 宗弘 氏
登米伊達家第16代ご当主
仙台藩士の北海道開拓の歴史を研究
著書は伊達君代氏との共著
『仙台藩最後のお姫さま 北の大地に馳せた夢』など



エフエム仙台(Date fm)
石垣 のりこ アナウンサー
宮城県民共済ラジオ番組
「みやぎスマイルプロジェクト」担当
仙台生まれの仙台育ち

伊達 宗弘 氏 × 石垣 のりこ

仙台大学客員教授 元宮城県図書館長

エフエム仙台(Date fm)

アナウンサー

今年は戊辰戦争から151年目の年。戊辰戦争以降、仙台藩がどういった処遇を受け、どのような未来への夢を抱いていたのか、改めて歴史を振り返る良い機会でもあります。亘理伊達家をはじめとする「大地の侍」たちの北海道開拓の魂が、今も道内各地で語り継がれていることを仙台・宮城に住む私たちも知っておくべきでしょう。

今回、宮城県民共済がエフエム仙台でお送りするラジオ番組「みやぎスマイルプロジェクト」『宮城の歴史さんぽ道』特別編第5弾として、元宮城県図書館長で現在は仙台大学客員教授の伊達宗弘先生をゲストにお迎えし、戊辰戦争を経て北海道開拓に挑んだ仙台藩士の歴史を採り上げます。その中でも、とりわけ亘理伊達家による開拓の歴史をひも解いていきます。4月14日の番組オンエアに先立ち、エフエム仙台「みやぎスマイルプロジェクト スマイル・インフォメーション」でおなじみの石垣のりこさんをインタビューに、対談の一部を誌上公開します。

身近に聞かされていた
仙台藩士の北海道開拓史

石垣 伊達先生は登米伊達家の第16代ご当主でもあります。簡単に自己紹介をお願いします。

伊達 私は登米町（現在の登米市登米町）の出身で、東京農業大学を卒業後、宮城県庁で働いていました。宮城県図書館の館長として職務を全うしたあとは、仙台大学の客員教授として教壇に立っています。

石垣 大学時代の卒論テーマは「仙台藩士の北海道開拓史」だそうです。どうしてこのようなテーマを選ばれたのですか。

伊達 大学に入つてすぐに受け持ちのゼミの先生から「伊達君は仙台藩の北海道開拓史で卒論を書くように」と言われたのがきっかけです。北海道伊達市や当別町、札幌市麻生町の伊達家とは親しくお付き合いしていましたし、北海道開拓の話はいつも父から聞かされていました。北海道の開拓物語を扱った本庄陸男の小説「石狩川」や映画「大地の侍」もありましたしね。当時の東京農業大学では、夏休みの農業実習が義務づけられていました。実習後、私は伊達市や当別町、札幌の伊達家にお伺いし、開拓時代のことをお聞きしながら卒論をまとめました。北海道

からきた親戚はよく岩出山の有備館に泊まっていたが、各地から集まった親戚がひと部屋に集まり、北海道開拓時代のエピソードをよく話されていました。

石垣 伊達先生の著書『仙台藩最後のお姫さま 北の大地に馳せた夢』も読ませていただきました。仙台藩の北海道開拓史のことが、ずいぶん詳細に書かれていますね。

伊達 10年前、ご縁があつて北海道伊達氏の直系の当主夫人である伊達君代さんと共著で出版しました。君代さんとは何度となくお会いしながら原稿を取りまとめました。津軽海峡を挟んで北海道と宮城を行き来しながら出版にこぎつけた著書なので、身内でなければ書けない内容だと自負しています。

新政府による仙台藩への処遇と
亘理伊達家の北海道開拓

石垣 戊辰戦争後の仙台藩に対する新政府の処遇はどのようなものだったか。

伊達 戊辰戦争で仙台藩は全ての領地が没収されましたが、特別の思召しで新しい仙台藩が誕生します。その藩域は名取郡、今の仙台市を含む宮城県、黒川郡、加美郡、そして岩出山を含む玉造郡及び志田郡の一部で、のちの宮城県のほんの一部に過ぎませんでした。仙台藩はそれ

ぞれが居住している地での帰農をすすめました。亘理や角田、白石の家臣たちは南部藩の武士のもとで帰農すること、つまり武士だった自分たちが農民になることには抵抗があつたようです。岩出山も新しい仙台藩にとどまりましたが、1万4600石から一気に65石へ。亘理伊達家が北海道開拓を目指したのは、まさに混乱のまっ只中でした。

石垣 当時の明治政府は北海道に対してどのような考えを持っていたのでしょうか。

伊達 当時の政府にとって大きな課題だったのがロシアとの関係で、北海道の開拓は急務のテーマでした。いち早く一部の仙台藩士が自費で北海道開拓へ踏み切つたのは、藩政時代から北方警備にあたつていた仙台藩にとってそこが開発可能な地域であることを承知していたからです。

石垣 仙台藩士の北海道開拓の足取りについて教えてください。

伊達 まず先陣を切つたのは亘理伊達邦成主従で、明治3年3月に250人が北海道を目指し、明治14年まで9回にわたつて総勢2681人が今の伊達市を拓きました。柴田家の家中123人も邦成を頼つて北海道に渡り、現在の伊達市舟岡町を拓いています。岩出山伊達家では邦成の兄邦直に率いられて総数560名が今の当別町を拓きました。白石片倉家は自費移住組46戸が幌別郡、官費移住組604人が今の札幌市白石区・手稲区を拓きました。角田石川家は、361人がアノロ原野に入植し、北海道屈指の稲作地帯をつくつて豊穡大地・空知郡栗山町を拓きました。



明治2年10月20日、支配地調査のため有珠に到着した邦成一行、アイヌの人たちが暖かく迎えてくれた。亘理開拓図絵（小野澤筆）

石垣 有珠の大地、伊達市を築いた亘理伊達家主従が高く評価されているのはどうしてですか。

伊達 伊達邦成や家老・田村顕允が徹底的な現地踏査を行ったうえで、館主をはじめ領民全員が家族を連れて移住させ、「同心協力」「不撓不屈」の精神で果敢に大地に挑んだからでしょう。時代を先読みした先見性や、先住民に対する心配りも成功の二因と思われます。

石垣 亘理伊達家主従の開拓成功の影には、仙台藩第13代藩主伊達慶邦公の妹で亘理伊達家に嫁いだ仙台藩最後のお姫さま「保子」をはじめとする女性たちの支えがあつたとも言われていますね。

伊達 女性たちの功績は大きかったですよね。戊辰戦争では謂われなき賊軍の汚名をかぶりながらも逆境に耐え、新天地に夢を馳せ、懸命に生きた保子の生き様は、仙台藩最後のお姫様にふさわしい漂としたものではないかと思っています。



伊達保子肖像
(北海道大学付属図書館蔵)

亘理伊達家の評価と現代の
私たちに伝えている教訓

石垣 新天地を開拓した亘理伊達家は、その後どのような評価を受けましたか。

伊達 明治14年、東京で第2回内国勸業博覧会開催の際、伊達邦成に名譽二等賞牌が、田村顕允には協賛二等賞牌が授与されました。明治25年、伊達邦成は華族に列せられ、男爵の位を授けられました。これは亘理から移住した人々の血と汗と涙の結晶でもありました。

石垣 現代を生きる私たちへの教訓は、どのようなことでしょうか。

伊達 亘理伊達家は、館主やそこに嫁いだ姫保子までもが一体となつて、困難に立ち向かいました。この領民一丸の姿勢こそが、困難とされた北海道開拓を可能にしたのではないかと思います。亘理伊達家の

開拓史に学ぶべきことは、行動に移す前にきちんとした現状分析や見通しを立て、徹底的に話し合いながら全員が納得し、相互の信頼関係を築きながら組織一体となつて邁進した点です。不断の努力を重ねることの大切さも忘れてはいけません。

石垣 今のお話は現代に生きる私たちにも通じるものですよ。

伊達 ひとこと言えば世の中の動き全体を俯瞰し、確固たる意思を貫きながらマネジメントできる人材も必要だということでしょうね。黙々と真摯な姿で開拓に携わる人々の姿は、現代に生きる私たちに、全ての運命を受け容れ、人として前向きにまっすぐに生きることの大切さを教えてくれます。

石垣 それは時代を超えての真理かもしれませんね。

伊達 今、私たちを取り巻く環境は不透明で殺伐とし、閉塞感が漂っています。そんな時代だからこそ私たちが北の大地に積極果敢に

挑んだ先人たちの生きた軌跡や心意気を学び、夢のある時代を築いた先人の功績について、次代を担う人々に伝えていくことが大切だと思います。

石垣 本日はありがとうございました。



特別対談の詳しい内容は

エフエム仙台

4月14日(日)

夜7時〜7時55分

みやぎスマイルプロジェクト

「宮城の歴史さんぽ道」

特別編 第5弾

の中で放送します。どうぞお楽しみに。

Date fm
Sendai 77.1